

# 学校と質的研究の これからを 考える

学校で質的研究をすることは難しい。  
しかし学校は比較的多くの人の通過点であるため、種々の社会問題が渦巻き、また結びつかざるをえない場所だ。  
ではどう学校で研究することができるのだろうか。

## 第一部【Q&Aセッション】15:00～16:15

『子どもの自殺問題の社会学』の内容検討および事前に募集した質問への今井先生からの応答を中心に、学校での質的研究における困難について考える。

## 第二部【トークセッション】16:30～18:00

学校での質的研究における困難の乗り越えて、これからどう発展できるのか、言説分析やエスノメソドロジーといった質的研究に関心のある参加者のみなさまと考えたい。モデレーターとして、栗原和樹先生（東京大学）と知念渉先生（大阪大学）をお招きする。

2月2日(月)

15:00～18:00

人間科学研究科北館2階  
ラーニング・コモンズ

講師 今井 聖 先生

琉球大学教育学部講師。「子どもの自殺問題の社会学」勁草書房、2025年の他、「〈子ども〉の自殺をめぐる補償・救済の論理：災害共済給付制度における運用上の変化に着目して」『教育社会学研究』108号、2021年など、学校での問題事象に関わる研究を進めていらっしゃる。

参加者には、可能な限り『子どもの自殺問題の社会学』を読んでの参加をお願いします。  
また出席フォーム（ポスター右下QR）への回答にご協力ください。その際、第一部【Q&Aセッション】で取り上げる、今井先生への質問もぜひ寄せてくださいませ。

